

☆^{（コロナ騒ぎに）}便乗しているもの、見過ごしているもの

◆いま、世界は新型コロナウイルス感染拡大で不安と閉塞感に覆われています。日本では五月四日に「緊急事態宣言延長」が出ましたが、先行きは不透明です。

◆安倍首相は五月三日の憲法記念日に、新型コロナウイルス対策に絡めて緊急事態対応のためにも憲法改正が必要と訴えました。まるで、今の憲法がコロナ対策を邪魔しているかのような発言ですが、そうでしょうか？
いまの法律で十分出来ます。もたついているのは行政ではないでしょうか。

コロナ騒ぎの中、辺野古設計変更申請とは！

◆一方、コロナウイルス感染拡大で社会不安と閉塞感が拡大しているのをあざ笑うかのよう、防衛省は四月二十一日沖縄辺野古基地建設の軟弱地盤工事の設計変更を申請しました。

◆これは技術的に無理と真面目な専門家が指摘しているのに、御用専門家の立案に便乗した設計変更です。コロナ対策でいくらかお金があっても足りないのに、工事総費用は二・五兆円に膨れ上がると見られています。まさに暴挙です。

戦争を無意味化した新型コロナウイルス感染拡大

◆世界の感染者は五月七日現在、二百八〇万人、死者は二十六万人に達しました。今後、医療体制の弱い発展途上国での爆発的感染拡大（パンデミック）がおこれば、グローバルな経済的打撃は計り知れません。

◆これは、戦争などにお金を使っている場合ではない事を教えているのではないのでしょうか。限りあるお金を戦争に使いますか？それとも、これからも続く感染症対策と貧困対策に使いますか？

お金の使い方が問われている

◆コロナ騒ぎの中で不思議なのは、この際、日本のみならず世界の軍備を撤廃し、それで浮いたお金を感染症対策や、貧困国救済、南北経済格差解消などに使うのではないかという議論が聞こえてこないということです。

◆日本で言えば、沖縄辺野古の軍事基地建設やアメリカからの戦闘機爆買いを即止めて、コロナ対策（医療、経済、貧困対策）に回せという議論が聞こえてこないのです。

◆いま苦しんでいる人々の救済策と共に、この際私たちの税金の使いかたを見なおそうではありませんか。コロナが教えてくれた教訓ではないでしょうか。

二〇二〇年五月十日（日）護憲平和行進（通算639回目）
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



日本国憲法前文より

〔平和的生存権〕

われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

憲法第二十五条

〔生存権、国の義務〕

国は、全ての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
国は、全ての生活部門において、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。